

大平研図書管理システム 要件定義書

2017 年 10 月 16 日

大東誠弥

岡坂亮汰

野口耕二郎

吉富楓雅

1.背景

ネットワーク情報学演習の課題の一環として、大平先生より図書管理システムの構築が要求された。これを受けて、大平先生の本の貸し出し状況が明確になるように、図書管理システムを導入する。

2.課題

現在、明らかになっている課題は次のとおりである。

- (1) 大平先生が本を貸し出した際に、いつ、誰に貸し出したかが分からなくなっている。
- (2) ユーザがどの本が貸し出されているかわからない状況になっている。

3.目的

大平先生の本の貸し出し状況が明確になることを目的として、図書管理システムを導入する。

4.概要

本システムでは、ユーザの利用として本を借りる機能、本を返す機能、貸し出し

状況を表示する機能、ユーザ登録をする機能、また大平先生の図書管理として貸し出し状況を表示する機能を構築するものとする。

5.機能

機能として、ユーザ画面設計と大平先生用管理画面の 2 つに分ける。

・『ユーザ画面』

1.本を借りる

- ・借りる人の情報を入力する。これについては大学のメールアドレスを用いることとする。
- ・借りたい本の検索をする。
- ・検索結果に貸し出し状況を表示させる。本が誰かに借りられていない場合、「借りる」ボタンから本を借りることができる。
- ・貸し出し完了画面を表示させる。

2.本の貸し出し画面

- ・誰が何を借りているのかを一覧で表示させる。借りられている本のタイトルと氏名を表示させる。

3.本を返す

- ・返す人の情報を入力する。これについては大学のメールアドレスを用いることとする。

- ・「返す」ボタンから、借りている本を返却する。

- ・返却完了画面を表示させる。

4.ユーザの登録をする。

ユーザをあらかじめデータベースに登録させることで、貸し出し・返却の際の作業をスムーズにする。

- ・ユーザ情報の新規登録を行う。名簿データベースを作成し、保管する。ユーザの大学メールアドレスを、登録するユーザ情報として利用する。

- ・ユーザ登録完了画面を表示させる。

・『大平先生用管理画面』

- ・ログイン画面、ログアウト画面を表示させる。

- ・貸し出し状況について、ユーザが何を借りているのかを一覧で表示する

- ・返却の催促通知を行う。

6.工程計画

設計完了：2017 年 10 月 16 日

開発期間：2017 年 10 月～2017 年 12 月末

テスト完了：2018 年 1 月末

導入：2018 年 2 月より